

プロジェクトに連携した農業現場から
和歌山マルドリミカン園

有田ミカンのブランド力高めるため、和歌山県は(独)農業・生物系特定産業技術研究機構が開発した新技術を導入し、地域の研究者らと連携して、生産現場において新商品「紀の国有田まるどりみかん(商標登録済み)」を開発しました。商品は今年で3年目を迎え東京で話題となっています。



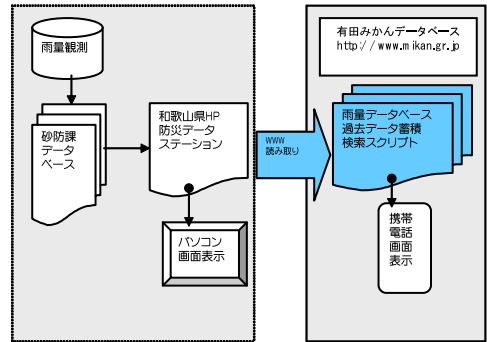
■ マルドリ方式(栽培システム)

栽培システムは近畿中国四国農業研究センターが開発したマルドリ(周年マルチ点滴灌水同時施肥)方式を採用し、農業生産人とJAの協力を得てモデル園を設置しました。このマルドリ方式は、さらに地域農業確立総合研究プロジェクト「カンキツの連年安定生産」の研究課題として研究され、新たなミカン栽培技術となりました。マルドリ方式の特徴は灌水や施肥をコントロールするために、カンキツ園をマルチで覆い、灌水は点滴チューブから行き肥料も水と一緒に与える方法です。この栽培方法は普通の露地栽培とは違い年々の気象変化の影響を受けにくく、安定的に高品質果実の生産が期待できる技術です。



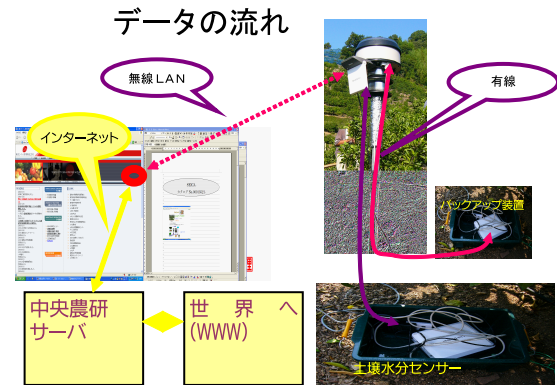
■ 携帯電話対応雨量データベース(気象観測)

マルドリ方式による水分コントロールを行うための基礎データとして地域の降雨を用います。そのデータ収集にMetBroker を利用し、<http://www.mikan.gr.jp> で携帯電話用に公開しています。



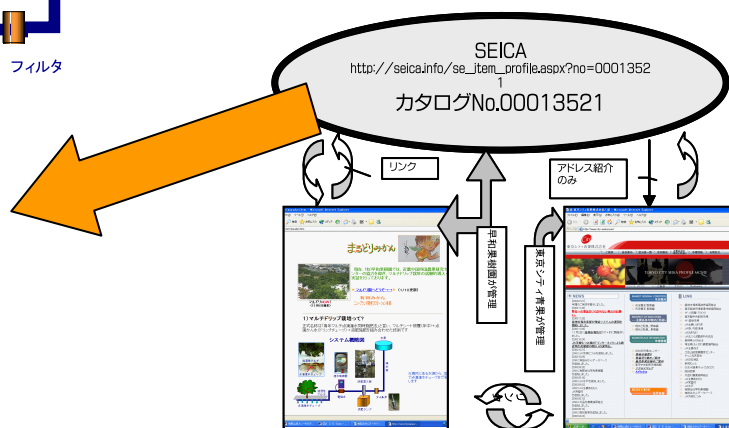
■ フィールドサーバ+水分センサー

マルドリ園にフィールドサーバを設置し、水分センサーから得たデータを解析して、マルドリ方式をコントロールする計画です。現在は基礎データ収集中であり、三重大学と共同で自動化の方向性を探っています。



■ SEICA ネットカタログを利用したトレーサビリティ

早和果樹園と東京シティ青果のWeb相互リンク



お問い合わせ先

和歌山県農業大学校
 佐々木茂明 (e-mail: sasaki_s0010@pref.wakayama.lg.jp)